

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

# 焼津福文共通信第22号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介 原崎洋一  
原崎幸子 平田厚

「“福祉”ってなに？150名の子どもたちに聞きます」調査、7月25日～8月30日実施  
「第3回調査部会」「第2回共創社会実現研究会」、学校関係者の意見をもとに「調査票」仕上げる

## ●「第3回調査部会」及び「第2回共創社会実現研究会」の議論を積み重ねて いよいよ、調査活動開始

これまで、2年間の活動実績を振り返り、3年目の活動は、より具体的に議論を深め、住民主体の活動に徹する目的で、令和3年度の「調査研究事業」は、計画的な「調査部会」を設け、関係団体等との「協働」関係をきめ細かく展開するため、6月3日に「第1回」「第2回」を6月26日に開催し、このたび、「第3回調査部会」を7月9日に開催した。



この間、「定例研究会」や、学校関係者への指導助言をお願いし該当学年の保護者・児童の協力をいただき「予備調査」も実施した。また、管内の自治会関係者の会議等の中で、調査の目的を説明するとともに、協力を呼びかけた。

また、静岡福祉文化を考える会が今年度設置した、「共創社会実現研究会」では、学校教育経験者や、地域コミュニティ実践者の立場から、「調査票」の設問項目について、建設的な意見をいただいた。

主な論点は、まず、「調査実施要項」を、大人社会にしっかりと理解していただき、調査活動は、単に子どもからの回答のみを期待するものではなく、取り巻く、大人社会の理解を基に「福祉の定義」等を本調査を通じて、子どもと共に理解していただき、その成果を期待すること。調査実施にあたり、まず、会員の自助努力を基本に取り組み中で、「港地域づくり推進会」「港第14・23自治会」「各町内会」と「単位子ども会」への調査依頼を具体化する。今回の調査は、学校教育の側面的な協力を基に、あくまでも、地域社会において取り組む事業であることを再確認。各校の「PTA会長様」「子ども会組織の代表者」「港地区民生委員児童委員協議会」への協力をお願いする。事業の計画的な取組みは、概ね、月2回程度、定例研究会開催前後に「調査部会」を開催し、円滑な運営を基に、関係団体等との「協働」で事業の進行管理を徹底する。

会員による、「データ入力協力者」がこれまでに6名確認出来た。7月30日までに、「データ入力フォーマット」を整え、申し合わせによる、入力作業に移行する。



●去る7月3日（土）静岡県総合社会福祉会館において、「第2回共創社会実現研究会」（静岡福祉文化を考える会主催）を開催し、「福祉ってなに？子どもたちに聞きます」調査票の内容について活発な意見をいただいた。

## ●●●●「若者発 ご近所福祉かるた」利用手引き書作成に取り組む ●●●●

「静岡福祉文化を考える会」が企画制作し、本会が協力をして完成した「若者発 ご近所福祉かるた」の活用拡大と地域福祉教育の開拓を目的に、「利用手引き書」の作成作業に入った。1月完成をめざして、A4版 22ページ 200部発行予定。「ご近所福祉とは」「若者発とは」「かるたの誕生の由来」「46枚のかるたのキーワード」「活用実践事例」「効果的活用方法」等を組み立てる。



シリーズ⑥ | ご近所福祉その意識と実態調査 から何が見えたか

設問 15 地域に、ふれあい交流をする機会の有無

- ①地区の行事を計画的に立て、積極的に取り組んでいる
- ②不定期だが、たまに交流することもある
- ③あまり集まることもない
- ④ほとんどふれあう機会はない
- ⑤わからない

\*全体的には、「不定期であるが、たまに交流することもある」34%、「行事を計画的に立てて、積極的に持っている」「あまり集まることもない」「ほとんどふれあう機会はない」17%、「わからない」14%。年代別では、20代では「わからない」48%。30代「わからまい」25%と高い。

設問 16 地域に、地区住民が進んで集まり、ひと時を過ごす「居場所」の取り組みの有無

- ①ある
- ②ない
- ③わからない

\*全体的には、「ある」49%、「ない」19%、「わからない」32%。今日、地域活動における「居場所」活動が積極的に取り組まれるようになり、地域における認識度が高まっている一面が伺える。年代別では、「わからない」の回答が20代74%、30代57%。加齢とともに、その認識度は高い。



★「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成を受けて、結成以来3年間地域の課題を浮き彫りにし、その改善・解決に取り組んでいます。

本会は、2019年度「地域ぐるみの居場所の検証」に取り組み、管内55の居場所を把握した。2020年度は、「ご近所福祉その意識と実態の検証」に取り組み地域コミュニティ意識の希薄傾向が浮き彫りになった。3年目の2021年度（今年度）は、子ども対象に、「福祉ってなに？」の調査研究事業（8万円助成）に取り組む。ご支援ご協力をお願いします。

**焼津福祉文化共創研究会」「静岡福祉文化を考える会」  
の活動状況を「QRコード」で確認して下さい！**



「地方発 福祉文化の創造」をさらに発信。本会活動の問い合わせは事務局まで。研究会QRコード 考える会QRコード

ド

事務局日誌拝見（6月12日～7月17日）

- 6/12 ・第27回定例研究会開催
- 6/19 ・港第23自治会町内会長会議に、赤い羽根共同募金助成事業、本会活動状況報告
- ・港地域づくり推進会事務局に、2021年度調査研究事業実施を連絡する
- 6/24 ・焼津市社協より、「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成金（8万円）交付決定通知書届く
- 6/25 ・港第23自治会町内会長会議に、赤い羽根共同募金助成事業、本会活動状況報告
- 6/26 ・「第2回IT（調査）部会」開催（6名出席 調査票検討作業）
- 6/28 ・焼津市社協へ、「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成金交付決定に伴う請求書類提出
- 6/29 ・「若者発 ご近所福祉かるた」100セット納品
- 6/30 ・「若者発 ご近所福祉かるた」と「調査票」（検討段階）を各会員に配布
- 7/02 ・今後の助成事業の展開について協議（「IT部会開催」「調査票仕上げ」「フォーマット作成」「調査依頼方法」
- 7/03 ・小川小・港小各校長様に、「調査研究事業」への協力と「調査票」全体の指導助言を依頼する
- 7/07 ・小川小・港小各校長様より、「調査研究事業」の全体意見と「調査票」全体の意見をいただく
- 7/09 ・「第3回IT（調査）部会」開催（調査票修正作業）本日までに、データ入力協力者6名確認
- 7/12 ・小川小学校区内の子ども会状況把握（2つの子ども会 対象者29名）
- 7/13 ・「2つの調査票」（最終修正案）を確認する
- 7/14 ・保護者及び対象児童に「予備テスト」の協力をお願いする（11名）
- 7/15 ・研究会通信第22号編集・配布作業
- 7/17 ・第28回定例研究会開催

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

# 焼津福文共通信第23号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デザインサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介 原崎洋一

原崎幸子 平田厚

## ★「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成事業で、結成以来3年間 地域の課題の改善・解決に取り組む「“福祉”ってなに？150名の子どもたちに聞きます」調査 本格的に動き始める プロセス重視で、地縁団体と志縁団体との“協働”の取り組みに期待



今年度の「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成事業・「調査研究事業：福祉ってなに？ 150名の子どもたちに聞きます。」は、「第28回（7月）定例研究会」（右写真7月17日開催）で、調査票の配布方法を中心に議論した。



本事業は、あくまでも、本会会員が主体に取り組むことを基本に、本会から、「地縁団体（自治会・町内会）」に、積極的に活動の趣旨を説明し、「志縁

団体（本会・子ども会・PTA等）との「協働」で取り組み、「共生社会」「地域の子どもを地域で育てる」「若い年代層との共創社会づくり」等の課題を改善し解決策を探る努力をしていきたい。こうした、近隣地域における活動は、日常的な連携が求められる。「子ども対象の調査」とはいえ、まずは、本会のこの3年間の活動実績を理解していただくところから始まる。そして、取り巻く地域社会の現状の中で、地域づくりの構築のための仕組みの現状から、しっかりと「つなぐ」「協働」「共創」の相互理解をもとに「プロセス重視」を大切にしていかなければならない。本活動に組み込み、一か月が経過し、重要な時期を迎えている。単に、「調査票」を誰かに頼み、回収すれば良いであってはならない。地域の動きの中で、日々示唆をいただいている。このこと自体、事業の真の目的がここにある。現在までに、順次、調査票は、配布または、発送作業に入っている。8月2日までの調査票の配布見込み状況は、下記の通りである。



焼津福祉文化共創研究会（港地域管内調査）			【参考】 静岡福祉文化を考える会（県域）	
(1)子ども会ルート	21箇所	418枚	(1)32市町社会福祉協議会（各10）	320枚
(2)スポーツ少年団	3か所	45枚	(2)共創社会実現研究会（3名×10）	30枚
(3)関係団体・学校	10カ所	50枚	(3)会員（21名×3）	63枚
計	60ヶ所	513枚	(4)実践者等（67名）	166枚
			計123ヶ所	579枚

PTA 会長様、子供会会長様と連絡を取り合い、各単位子ども会世話人の方に、「調査票」を届ける作業が、現在、続けられていることも、しっかりと理解していかなければならない。「調査票」の配布・発送作業が一段落したら、回収までは、きめ細かい問い合わせ等への対応にあたる。

町内会長様からは、子供会世話人の方と連絡を取り合っていること、子供会世話人の方とは、休日でないとなかなか話し合いが出来かね、何回か足を運んでいる、等の連絡をいただいている。「調査票」の回収は、今後、子供会世話人からの直接ルート、町内会長経由ルート、8月25日登校時学校で回収ルート等が予測される。

会員相互の協力で、丁寧に回収作業に取り組むたい。「第4回調査部会」（7月31日開催・写真下）では、「調査票」回収後のデータ入力を、フォーマットに基づき、昨年度の反省をもとに確認し合った。



**シリーズ⑦** 「ご近所福祉その意識と実態調査」から何が見えたか

★2020年度赤い羽根共同募金助成事業により実施した「調査結果」を研究会通信第17号からシリーズで連載中  
今回は「地域参加の動向編」 次回(シリーズ⑧)は、引き続き「地域参加の動向編と地域環境編」予定

**設問 18 「コロナ禍」の中、地域の見守り活動や居場所等、地域ぐるみの取り組みの協議の有無**

回答順に①「今のところない」55%、②「わからない」30%、③「動きはある」12%、④「全体的な話し合いの場を持った」3%と、地域における取り組みはこれからの課題と感じる。

**設問 19 地域の行事や活動への参加について**

全体的には、①「時々参加している」57%、②「積極的に参加している」23%、③「ほとんど参加していない」21%。年代別に見ると、20代「ほとんど参加していない」75%と高いことは、結婚歴からも「未婚者」の57%の回答からも伺える。また、加齢化とともに地域参加は減少傾向。

**設問 20 地域の行事や活動参加の内容**

全体的には、回答結果の多い順に①「防災訓練」70% ②「清掃活動」66% ③「自治会・町内会活動」23% ④「地域の祭り」10% ⑤「スポーツ関連行事」8% ⑥「PTA・子ども会活動」5% ⑦「奉仕活動」5% ⑧「交通安全活動」2% ⑨「文化関連行事」1%。

40年代以上は、①「防災訓練」②「清掃活動」の回答順。20代「スポーツ関連行事」29%と高い。30代は「PTA・子ども会活動」18%。港地域における「防災意識」の高さが伺える。

**設問 21 地域の行事や活動に参加しない主な理由**

全体的には、回答の多い順から①「時間がない」32%、②「参加したいと思わない」28%、③「情報が入らない」23%、④「興味がわからない」18%、⑤「参加のきっかけがない」18% ⑥「健康でない」11%、⑦「自分に合った活動がない」10%、⑧「一緒に活動する人がいない」7%。

年代別で、回答の一番多い理由では、20代「情報が入らない」39%、30代「参加のきっかけがない」「時間がない」各27%、40代「参加したいと思わない」28%、50代「時間がない」31%、60代「興味がわからない」「健康でない」「参加したいと思わない」各20%、70代「参加したいと思わない」42%、80代以上「健康でない」30%。

**焼津福祉文化共創研究会」「静岡福祉文化を考える会」**

**の活動状況を「QRコード」で確認して下さい！**



「地方発 福祉文化の創造」をさらに発信。本会活動の問い合わせは事務局まで。研究会QRコード 考える会QRコード

**事務局日誌拝見 (7月17日~8月2日)**

7/17	・第28回定例研究会開催
7/18	・港第23自治会会議にて、調査協力呼び掛け
7/19	・第28回定例研究会議事録ブログにアップ ・調査入力フォーマット作成作業
7/21	・7月地区民協定例会議にて、調査協力呼び掛け 通信配布
7/22	・調査票依頼送付文書作成作業 ・フォーマット作成点検作業
7/23	・「研究会通信第22号」作成 関係機関・団体等にメール送信作業
7/24	・会員からの調査票回収5枚受け取る ・港第14自治会内町内会長より問い合わせ対応
	・港第23自治会 12の子ども会有的情報
7/25	・港第14自治会町内会長会議にて、調査協力依頼と子ども会世話人との連携呼び掛け
7/27	・焼津市助成金振込確認し、本日以降「助成事業関連出納簿」に基づく会計処理開始
7/29	・焼津市社会福祉協議会に、助成事業の経過報告実施 ・本日より、データ入力作業開始
7/31	・第4回調査部会開催
8/1	・第4回調査部会議事録作成 ・調査票回収状況確認及び問い合わせ対応
	・港第23自治会内の子ども会世話人との協議 「調査票」依頼の具体化
8/2	・焼津福祉文化共創研究会通信第23号発行 関係機関・団体等にメール送信作業

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

# 焼津福文共通信第24号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介 原崎洋一

原崎幸子 平田厚

★「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成事業

「“福祉”ってなに？150名の子どもたちに聞きます」調査票予想以上の回収  
地域を取り巻く「地縁団体」と「志縁団体」との協働の新たな課題を探る



2021年度「焼津福祉文化共創研究会」は「赤い羽根共同募金助成事業」により、「福祉ってなに？150名の子どもたちに聞きます。」調査研究活動を7月から本格的に取り組んでいる。

8月上旬までには、自治会、町内会、地区民生委員児童委員協議会への説明と協力をお願いをし、各子供会世話人の皆様には、厳しい社会状況下、ご多忙の中、直接対象児童への配布と回収をお願いした。

さらに、今回の調査研究活動の取り組みにあたり、小川小学校、港小学校の校長様には、調査票の内容及び調査実施に関する全体について指導助言をいただいた。また、各校のPTA及び子供会役員の皆様にも、多大なご理解とご協力をいただき活動を進めている。

厳しいコロナ禍下、地域社会全体の連帯感が心配される中、子どもたちの思いやりの心は果たして、どうかを把握し、各方面に問題提起をする目的で取り組んでいる調査活動であるが、調査活動の基本である、対象児童（小学4年生から6年生）は管内にどのくらいか、子供会の現状を含め、しっかりと把握（地域ニーズを知る）する必要性を感じ、情報収集活動に取り組んだ。その結果、下記の状況を把握（2021.4.1現在）することができた。港第14自治会管内子供会組織は、12の町内会のうち7町内会に9組織（但し、1町内会22町内会2.）、港第23自治会管内子供会組織は、15の町内会に12組織。合わせて管内には、21の子供会組織があることがわかった。子ども会に未加入児童、複数の町内会で1つの子供会組織を持つ現状も把握できた。

港地域づくり推進会管内（港第14・23自治会）子供会調査対象児童状況把握一覧表

No.	子供会名	校区	自治会	4年生	5年生	6年生	対象児童合計	子供会全体児童数
1	星の子第1子供会	小川	14	4	5	8	17	43
2	星の子子供会	港	14	6	6	7	19	57
3	第1青い鳥子供会	港	14	5	9	7	21	53
4	新青い鳥子供会	港	14	6	6	3	15	29
5	するが子供会	港	14	2	7	1	10	23
6	石津浜子供会	港	14	5	2	4	11	20
7	青空子供会	港	14	4	2	4	10	16
8	第1新青葉子供会	港	14	5	4	2	11	28
9	星の子第2子供会	小川	14	7	4	1	12	42
港第14自治会関係小計				44	45	37	126	311
10	第1若竹子供会	港	23	9	11	6	26	62
11	第2若竹子供会	港	23	5	2	1	8	18
12	第3若竹子供会	港	23	3	0	3	6	13
13	第5若竹子供会	港	23	5	1	3	9	16
14	第6若竹子供会	港	23	3	6	8	17	36
15	第1仲よし子供会	港	23	0	4	1	5	19
16	第2仲よし子供会	港	23	7	6	3	16	39
17	第3仲よし子供会	港	23	7	5	2	14	26
18	第1さざ波子供会	港	23	4	9	6	19	33
19	第2さざ波子供会	港	23	6	2	4	12	28
20	第1砂浜子供会	港	23	6	5	5	16	22
21	第10砂浜子供会	港	23	3	3	0	6	15
港第23自治会関係小計				58	54	42	154	327
港地域づくり推進会管内合計				102	99	79	280	638

◇参考：各自治会・学校別と調査対象児童数

全児童数/対象数	小川小学校		港小学校		調査対象児童合計
	全児童数	対象数	全児童数	対象数	
港第14自治会	85名	29名(2子供会)	226名	97名(7子供会)	126名(9子供会)
港第23自治会			327名	154名(12子供会)	154名(12子供会)
調査対象児童数	29名(2子供会)		251名(19子供会)		280名(21子供会)

## 8月31日現在、回答いただいた尊い子どもたちの声は216名(77%)

多くの皆さんの協力をいただき「福祉ってなに?150名の子どもたちに聞きます。」調査は、ここまでに「216名の子どもたちに聞きました。」調査回答状況である。すでに、データ入力も、会員が手分けをして作業に取り組んでいる。本事業に取り組むにあたり設置した「調査部会」は、既に5回目の協議を重ね、これまでの調査研究事業のプロセスを確認し、データ入力進捗状況、今後に向けた、「クロス集計」作業の検討調査報告の時期等を議論している。



●「若者発 近所福祉かるた」(静岡福祉文化を考える会作成、焼津福祉文化共創研究会協力)には、「子ども」を地域で育むヒントが数々組み込まれている。「かるた」に関する問い合わせは、本会まで。

## シリーズ⑧ | 近所福祉その意識と実態調査 から何が見えたか

★2020年度赤い羽根共同募金助成事業により実施した「調査結果」を研究会通信第17号からシリーズで連載中  
今回は「地域参加の動向編と地域環境編」 次回(シリーズ⑨)は、「地域環境その2編」予定

### 設問 22 ともに助け合う地域づくりに向けて、活動しやすい地域の環境について

\*全体的には、回答の多い順にまとめると、①一緒に活動する人(仲間)がいること61% ②個々人が気軽に参加できる活動の機会があること52% ③地域が抱えている課題の情報が提供されていること19% ④団体や活動に関する情報が入手しやすいこと12% ⑤退職などにより、時間的なゆとりが出来ること6% ⑥ボランティア休暇など、公共的な活動に参加しやすい仕組みがあること4% ⑦公共的な活動を積極的に評価し、支援する仕組みがあること4% ⑧長期休暇や労働時間の短縮で余暇が増えること3% ⑨どんな環境でも活動したいとは思わない3%

### 設問 23 地域活動の拠点有無

\*全体的には、「活動拠点はある」55%、「ない」4%であったが、「わからない」42%と高い回答結果。男女別では、地域に比較的関わりのある女性の認識は高い。年代別考察では、20代65%、30代57%、40代56%、50代52%と、若い世代の認識は薄い。

### 設問 24 主な地域活動の拠点場所

\*全体的には、回答の高い順にあげると、①「公民館」42%、②「公会堂」40%、③「集会所」8%、④「コミュニティセンター」6%、⑤「お寺」2%、⑥「神社」「個人宅解放の場所」各1%。

### 設問 25 地域のコミュニティについての考え

\*全体的には、回答の多い順に、①「潤いのある生活を営む上で非常に重要な役割をもっている」39% ②「よくわからない」33% ③「今後、ますますその役割は薄れてくる」15% ④「生活を営む上で必要は感じていない」13% ⑤「その他」1%  
年代別に見ると 若い世代ほど、「よくわからない」20代61%、30代46%、40代38%の結果。また、「潤いのある生活を営む上で非常に重要な役割をもっている」は、加齢化とともに回答は高い傾向。

**焼津福祉文化共創研究会」「静岡福祉文化を考える会」  
の活動状況を「QRコード」で確認して下さい!**

「地方発 福祉文化の創造」をさらに発信。本会活動の問い合わせは事務局まで。



研究会QRコード



考える会QRコ

Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

**焼津福文共通信第25号**

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介 原崎洋一

原崎幸子 平田厚

## ★「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成事業

「“福祉”ってなに？150名の子どもたちに聞きます」調査票回収終わる  
「協働」による取り組みで、尊い子どもたちからの回答は244枚となりました

## ●地縁と志縁の協働による福祉コミュニティ再構築に向けた始動

平成28年度から3年間取り組んだ「港地域ささえあい講座」から誕生した本会は、①語れる地域環境の醸成 ②“地縁団体”と“志縁団体”の「融合」による地域づくり ③“専門性”と“市民性”の「協働」による地域づくり ④当事者等の支援を探る ⑤管内のささえあいの仕組みづくり ⑥総合的地域支援組織の構築 ⑦地域を「見える化」する取り組み ⑧制度施策を理解する地域福祉教育の推進 ⑨ご近所福祉の復活（日頃のささえあいの環境づくり） ⑩世代を超えた「地域総合型学習形態」の仕組みづくり 等を掲げ、主に「地域の課題把握」を中心にここまで来た。これからの地域づくりは、誰かが担ってくれるのではなく、私たち一人一人が参画して取り組める努力がいま求められている。そのためには、まず「地域を知らずして、活動はできない」ところから、1年目は「地域ぐるみの居場所を検証する」に取り組んだ。2年目は、「ご近所のささえあいこそ、地域づくりの原点」をもとに、「ご近所福祉」を問題提起をしてきた。

そして、3年目の今年度は「コロナ禍下、地域コミュニティの希薄化の中で、子どもたちは、何を大人社会に訴えているか」をもとに「福祉ってなに？150名の子どもたちに聞きます」の調査研究活動を、焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業により取り組むことができた。

## ●当初設定した150名を大幅に上回る、244名（回収率87%）の尊い子どもたちからの回答

コロナ禍下の大変厳しい地域環境の中、自治会・町内会関係者、小川・港各小学校校長様をはじめPTA・子供会役員、各子供会世話人の皆さん、地区民生委員児童委員の皆さんのご理解とご支援により9月20日までに244名の調査票の回答をいただいた。本会が取りまとめた管内子供会加入対象者概数で、小学4年生から6年生の対象児童280名の87.1%にあたる244名の児童から尊い意見をいただくことができた。昨年度取り組んだ「ご近所福祉その意識と実態調査」から、大人社会における地域住民相互のつながりやささえあいの希薄化が浮き彫りにな



\*登校する子どもたちにアンケート協力呼びかけ（港小にて）

なったことを踏まえて、こうした地域環境で生活している、次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」はどうか、加えて、厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうかを把握し、地域社会に問題提起をすることを目的に取り組んでいる。今後、この調査研究事業は、本会内の「調査部会」及び「月別定例研究会」において、分析・考察作業（11月下旬まで）、「調査報告書」編纂作業（1月中旬まで）、「調査報告書」完成（2月上旬まで）、そして、「公開型調査報告研修会」へとつなぐ。

★2021年度赤い羽根共同募金事業 調査研究事業  
「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました」

**公開型報告研修会開催予告**

\*開催日時 令和4年2月19日（土）13:30～15:30

\*開催会場 焼津市・石津コミュニティ防災センター1階展示室

\*プログラム 13:30 開 会

13:40 経過報告「地域の課題把握3年の3歩み」

14:10 調査報告「244名の子どもからの提言は」

15:00 意見交換「地域の子どもの地域で育む」

15:30 閉 会

\*その他 当日「調査報告書」を配布します。なお、詳細は、1月上旬にご案内します。



◆2020年度の報告研修会「ご近所福祉」より

●焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見

9/11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第30回定例研究会（第6回調査部会）開催</li> <li>・本会調査研究活動に関する、9/7静岡新聞社取材記事が本日掲載</li> </ul>
9/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼津市社会福祉協議会及び静岡県コミュニティづくり推進協議会へ活動状況報告</li> <li>・調査票回収244枚確認</li> </ul>
9/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査協力関係者への「礼状文書」修正作業</li> </ul>
9/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査単純集計作業から、クロス集計作業、及び文章回答項目のグラフ化作業</li> </ul>
9/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査協力関係者への「礼状文書」発送作業</li> </ul>
9/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回調査部会開催</li> <li>・港第14・23自治会町内会長、21の子供会世話人へ調査票回収報告とお礼、今後の活動の計画説明と引き続きの協力依頼</li> </ul>
9/26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「若者発 ご近所福祉かるた利用手引き書」執筆作業（～10/10）</li> </ul>
9/27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各会員に「調査考察意見書」配布（10/9報告）</li> <li>・「調査報告書」執筆作業開始（～11/10）</li> </ul>
9/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「研究会通信第5号」編集作業（～10/8）</li> </ul>
10/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成団体等に事業進捗状況経過報告（焼津市社協、県コミ推協、さわやか福祉財団、あしたの日本を創る協会）</li> <li>・かるた印刷業者との協議 調査報告書印刷業者との協議</li> </ul>
10/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回調査部会開催（データ入力者出席 考察状況検討 18:00～19:00）</li> </ul>
10/9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第31回定例研究会開催（各会員の考察報告中心 18:00～19:00）</li> </ul>
10/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「調査報告書作成企画書」に基づく執筆・編集作業開始</li> </ul>

シリーズ⑨ |「ご近所福祉その意識と実態調査」から何が見えたか

★2020年度赤い羽根共同募金助成事業により実施した「調査結果」を研究会通信第17号からシリーズで連載中  
今回は「地域環境編その2」 次回(シリーズ⑩)は、「総括」予定

設問 26 地域に「地域ぐるみで見守り活動」をする支援体制の有無

\* 全体的には、回答の多い順に、①「わからない」38%、②「ある程度地域住民が取り組んでいる」37%、③「どちらかというとな消極的な取り組みである」13%、④「ほとんど活動はしていない」7%、⑤「地域が一体となって積極的に取り組んでいる」6%。この結果から見えるのは、いま、なぜ地域の福祉活動か、そしてその必要性について、福祉関係者だけの理解で、地域住民に十分「見える化」「わかる化」していない状況であることと伺える。

設問 27 今後、地域において困った状態の時、在宅生活を維持していく上で必要な支援・サービスは何か

\* 回答の多い順から、①「見守り・声かけ(安否確認)」70% ②「災害時の手助け」44% ③「同行(買い物・通院等)支援」22%、④「話し相手」19%、⑤「移動支援」「簡単な介助・介護」各17%、⑥「子育て支援」「定期的なふれあいサロン(居場所)」各14%、⑦「配食」12%、⑧「ゴミ出し」9%、⑨「簡単な修理」6%、⑩「掃除(草取り)」7%、⑪「趣味・特技の援助」3%、⑫「小動物の世話」2%、⑬「調理」「洗濯」「お墓の掃除」1%。すべての年代で①「見守り・声かけ(安否確認)」②「災害時の手助け」の回答が高い。30代では、3番目に「子育て支援」の回答が多い。80歳以上の回答で「見守り」27%、「災害時の手助け」9%と回答されている。ご近所において「見守り・声かけ(安否確認)」が求められると考えられる。

設問 28 日頃から、地域で、災害等の対応として、地域の助け合いの取り組みとして、大切なことは何か

① 日頃からの挨拶・声掛け等近所付き合い 76% ②日頃から各種会合や防災訓練に参加 41%  
③ 地域の高齢者や障害者等の把握と情報の共有 23% ④地域と行政・福祉団体等との協働における支援体制の構築 14% ⑤災害時等に対応できる有資格・技能者の把握(地域を総合的にコーディネート出来る人財確保と活動助成支援) 7% ⑥災害及び地域ボランティアの育成(研修) 7% ⑦企業・学校・地域社会での「福祉教育」5% ⑧行政・福祉団体の主導的・地域との関わり 4% ⑨要支援者への災害等情報伝達体制の構築 1%

焼津福祉文化共創研究会「静岡福祉文化を考える会」  
の活動状況を「QRコード」で確認して下さい!

「地方発 福祉文化の創造」をさらに発信。本会活動の問い合わせは事務局まで。



研究会QRコード



考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

# 焼津福文共通信第26号

## 「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介 原崎洋一

原崎幸子 平田厚

### ● 2021年度「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成事業 管内の対象児童の87%からいただいた、尊い意見をもとに、 「“福祉”ってなに？244名の子どもたちに聞きました」調査報告書 作成進行中



令和3年度の本会活動も、折り返しの時期に入った。「赤い羽根みんなのしあわせ募金助成事業」により、取り組んでいる「子ども対象調査研究事業/福祉ってなに？ 150名の子どもたちに聞きます」は、管内の学校、PTA、子供会、自治会、町内会、各子供会世話人の皆様の積極的な協力をいただき、9月20日までに、244名の子どもたちから尊い意見が届いた。

本会では、当初、管内対象児童280名のうち、せめて約50%の回答を期待し、調査の表題を「150名に聞きます」として取り組んだが、結果は、予想を大幅に上回る244名（87%）の回答をいただいた。

今年度の調査研究活動に取り組むにあたり、これまで、調査要項、調査票等の検討を始め、調査データ入力作業に関する一連の協議をする場として、本会内に「調査部会」を設置するとともに、定例研究会（月1回開催）につなげ、10月7日までに8回調査部会を開催してきた。すでに、単純集計をはじめ、クロス集計が終わり、会員全体の考察作業に入った。今後、11月下旬までに、考察作業を終えて、12月下旬までに「調査報告書」の編集終了、2月19日の公開型報告研修会につなげる。（会場：石津コミュニティ防災センター1階展示室）

「第31回定例研究会」（10月9日開催）で、会員による考察作業を行った。その概要を紹介する。

1	総括コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「協働」による事業の取り組みの成果</li> <li>・「見える化」「わかる化」の努力</li> <li>・地縁と志縁による「協働」の取り組みの意義は大きい</li> <li>・プロセス重視</li> <li>・地域交流を子供の目線で</li> <li>・わが子だけの関りではない地域づくり</li> <li>・全体に、大人は「男性児童」への関りの必要性あり</li> </ul>
2	基本属性全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偶然ではあるが、学年別・男女別等「均等化」した回答である</li> </ul>
3	質問2 友だちとのあそび	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り巻く社会環境（親の都合、子どもの生活基盤の固定化）が、子どもの行動を制約している</li> </ul>
4	質問3 手伝い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の都合（経済的側面・共働き社会）で、課せられていないか</li> <li>・家庭・家族内での生活のルール化に手伝いを日常的に位置付けていく</li> <li>・女性児童は積極的傾向が伺える</li> <li>・家庭内の手伝いが地域参加を積極的な行動につながることに期待</li> </ul>
5	質問4 相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども基準の「相談内容」では、「友達」の回答が多い</li> <li>・相談相手に母親が多く、父親の存在が弱い</li> <li>・発達段階に応じた問題解決への期待</li> <li>・コミュニケーション能力を延ばす、大人社会の努力が求められる</li> </ul>
6	質問5 友だちが悩んでいたら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に「話し合える環境」</li> <li>管内の子どもたちは優しさがある</li> <li>・世代を超えて話し合える環境を維持することが求められる</li> </ul>
7	質問6 家族との会話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に「話し合う」環境にある</li> <li>・一部に、家族・家庭環境の工夫</li> </ul>
8	質問7 家族との会話良い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭・地域生活のあらゆる場面で、会話のできる環境</li> </ul>
9	質問8 家族との会話ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人が、子どもを引き出す、語れる環境に努めることが必要</li> </ul>
10	質問9 家族にほめられる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃生活で、子どもに声をかけていく努力</li> <li>・ほめ合う環境に努力する</li> <li>・やる気＝子供の成長を促す</li> <li>・量より質の言葉かけ</li> <li>・ありがとうの言葉</li> <li>・小さな出来事でも、安心感が生まれる</li> </ul>



\*質問10以降は、次号に掲載する。

**●協働団体：静岡福祉文化を考える会は、このほど「鈴与マッチングギフト助成事業」で、「拡大ご近所福祉かるた」制作決定 地域で、ご近所福祉の学び合いに、大いに活用を期待**

新聞記事によると、今年度の「鈴与マッチングギフト助成事業」は、社員有志が毎月100円ずつ1年間積み立てた130万円に、今年は鈴与創業20年にあたることから220万円を上乗せし、350万円を静岡市内の福祉団体に贈呈された。「静岡福祉文化を考える会」では、これまでも、「若者発 拡大ご近所福祉かるた」を拡大し、広く住民福祉教育活動に活用する目的で、2セット制作の助成をいただいている。今年度は、さらに「ご近所福祉」を呼びかけるために、2セットの制作(71,500円)を目的に申請した。今後、安心した地域づくりの学び合いに活用する。



\*世代を超えて「ご近所福祉を学び合う」

**シリーズ⑩ (最終回) 「ご近所福祉その意識と実態調査」から何が見えたか**

★2020年度赤い羽根共同募金助成事業により実施した「調査結果」を研究会通信第17号からシリーズで連載中  
今回は「シリーズ⑩」 最終回として調査のまとめ(総括)

1. 本会結成から3年間のプロセスによる「ご近所福祉」を検証できた。
2. 「協働」重視による「調査研究活動」の発展性に心掛けた。
3. 本会初めての、手づくりによる「調査研究活動」は、「信頼性」と「均等化」を念頭におきながら、管内地域住民への協力を呼びかけ、「基本属性」をもとに考察し、課題提起が出来る努力をした。
4. 地域との関わりの意識に関する考察から、住んでいる地域の人々との交流が大切だと意識している。「超高齢社会」の今日の「生活の支え」の意識は、「家族の支え」「地域の支え」「自分自身の支え」の順。
5. 地域との関わりの実態に関する考察から、近所づきあいは、約9割満足傾向である。居住年数が長いほど、満足度は高い。日常における生活情報源は、「ラジオ・テレビ」②「インターネット」③「家族」④「新聞」⑤「友人・知人」⑥「回覧板」⑦「行政広報誌」⑧「自治会等発行広報誌」⑨「口コミ」⑩身近なコミュニティ組織の運営で、大きな課題を抱えているのが「地域の役員の選出」である。「推薦に応じない」が「推薦に応じる」を上回っている。
6. 地域参加の動向に関する考察からは、ともに助け合う地域づくりに向けて、活動しやすい地域環境としての回答結果は、①一緒に活動する人(仲間)がいること ②個人々が気軽に参加できる活動の機会があること ③地域が抱えている課題の情報が提供されていること ④団体や活動に関する情報が入手。
7. 地域環境に関する考察から、今後、地域において困った状態の時、在宅生活を維持していくために必要な支援・サービスの回答の多い順に①「見守り・声かけ(安否確認)」②「災害時の手助け」③「同行(買い物・通院等)支援」④「話し相手」⑤「移動支援」⑥「簡単な介助・介護」⑦「子育て支援」⑧「定期的なふれあいサロン(居場所)」⑨「配食」⑩「ゴミ出し」⑪「簡単な修理」⑫「掃除(草取り)」  
コロナ禍の今、新たなふれあい・支え合う地域づくりに向けた取り組みは、①日頃からの挨拶・声掛け等近所付き合い ②日頃から各種会合や防災訓練に参加 ③地域の高齢者や障害者等の把握と情報の共有 ④地域と行政・福祉団体等との協働における支援体制の構築

**●焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見 (10/5~11/13)**

10/5	・「まちむら 155号」(あしたの日本を創る協会発行)の本会活動掲載
10/7	・第8回調査部会開催(データ入力者出席 考察状況検討 18:00~19:00)
10/9	・第31回定例研究会開催(各会員の考察報告中心 18:00~20:30)
10/10	・「調査報告書作成企画書」に基づく執筆・編集作業開始
10/21	・「若者発ご近所福祉かるた 利用の手引き」編集作業支援
10/22	・第1回焼津市V連代表者会議開催案内あり(11/20 年会費徴収、V保険補助、V連活動助成審議)
10/23	・第9回調査部会開催・考える会調査票データ入力作業完了の報告あり(古屋氏、望月隆仁氏)
10/25	・「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」最終修正完了し、シブヤ印刷芸芸社と協議の上入稿
10/26	・「調査報告書」執筆作業 港第14自治会町内会長会議において、「まちむら155号」紹介
10/28	・焼津市社協及び静岡県コミュニティづくり推進協議会に事業の経過報告実施
10/30	・静岡県コミュニティづくり推進協議会主催「コミュニティカレッジ」で本会の実践展開紹介
11/09	・「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」完成 マスコミ対応
11/13	・第32回(11月)定例研究会開催

「焼津福祉文化共創研究会」「静岡福祉文化を考える会」の活動状況を「QRコード」で確認して下さい! 「地方発福祉文化の創造」をさらに発信。

本会活動の問い合わせは事務局まで。



研究会QRコード 考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

# 焼津福文共通信第27号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介 原崎洋一

原崎幸子 平田厚

● 2021年度「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成事業  
 「“福祉”ってなに？244名の子どもたちに聞きました」調査概要報告 その2  
 回答結果をもとに、本会会員による考察は……



令和3年度の本会活動「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました」調査研究活動は、会員による調査考察作業を10月と11月の定例研究会において取り組み、現在「調査報告書」の編集作業中である。

先月号に引き続き、会員による調査結果からの考察について、前回、調査全体のコメントと、質問1から質問10までを取り上げたので、今回は、質問11から質問24（最後まで）を紹介する。

11	質問10 家族と楽しい	・「どちらともいえない」3%は気になる。(家庭家族関係の改善)
12	質問11 地域で心掛けてること	・家庭のしつけ ・小さい時から、しつけを身につける ・挨拶のできている地域である ・大人から子供たちに声掛けをしていく
13	質問12 他人のためになにかしてあげたい	・優しい心を持っている ・思いやりのある子供が多い ・子どもたちが、地域に役立つ実践できる環境づくりが大人社会に求められている
14	質問13 近所の人との会話	・挨拶60% ・大人から、積極的に呼びかける環境 ・地域社会が語れる環境にしていくこと
15	質問14 地域行事の参加	・「参加している」78%と積極的だある ・厳しいコロナ禍下、大人社会が魅力ある行事をいかに維持していくかの課題 ・子どもの参加を求める地域行事の努力
16	質問15 地域はよいか	・「良い環境」が大半
17	質問16 地域の良いところ	・「近所の人優しい」は救われる
18	質問17 地域の良くないところ	・ハード面では「あそび場」を求めている
19	質問18 地域参加の呼びかけに	・やや消極的の回答が多い ・大人中心の行事から、子ども中心の行事仕立ての工夫 (子どもが興味を持つ行事企画)
20	質問19 地域の人からほめられる	・日頃から、大人が一声掛け合う地域づくりに努める ・「ない」回答が大半。 質問13「あなたは近所の人と話をしますか」と照らし合わせると、近所の人と関係があいさつ程度にとどまっていることから、地域の大人と子どもとの「希薄さ」が感じられる。積極的に大人たちの子どもへの歩み寄りが求められる。
21	質問20 赤い羽根共同募金を知っているか	・学校教育だけに委ねることなく、家庭や地域社会において、常に子どもたちに、歴史ある民間の活動を学び合うことが必要である。 理論だけではなく、社会の仕組みの中で学び合うことが必要
22	質問21 地域の情報	・意外と「ネット」回答が少ない ・家族、学校の回答は、大人社会が、わかりやすく、日頃から地域の動きを話題にすることが必要
23	質問22 地域で楽しい場所	・やはり、一番は「家庭」次に「学校」の回答順であった ・「その他」13%は気になる ・異年齢集団社会
24	質問23 ふれあい交流の有無	・地域社会において、いろいろな人がいて当たり前、日頃の生活の中で、「実体験」できる機会をもつこと ・だれとでもかかわる環境努力 ・地域の場づくり (地域ぐるみの居場所) ・「ない」回答が70%今日、多様化した地域社会の中で、全ての日常生活の中でふれあいの機会をつくることが提起されている
25	質問24 みんなが安心して暮らせる地域とは	・安心安全な地域を、ほとんどの子どもが望んでいる

**☆2021年度赤い羽根共同募金事業 調査研究事業「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました」  
令和4年2月19日(土) 公開型報告研修会開催します**

令和元年4月に結成した本会は、令和元年度は「地域ぐるみの居場所を検証事業」、令和2年度は「ご近所福祉その意識と実態調査事業」、そして、令和3年度は「厳しいコロナ禍下、子どもの思いやりの心検証事業」と、市民の尊い「赤い羽根共同募金」による助成事業として、活動に取り組み、その結果をその都度市民に報告する目的で、その都度「公開型報告研修会」を開催してきた。

今年度は、学校関係者をはじめ、子供会世話人、PTA 関係者、自治会・町内会関係者、側面的ご理解とご支援を地区民生委員児童委員の皆様からいただき、「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました」の調査を実施することが出来ました。管内の関係機関・団体等との「協働」による活動により、子どもたちから貴重な回答をもとに、考察することができた。下記の日程で、「3密防止」を徹底して「公開型報告研修会」を開催する。

- \*開催日時 令和4年2月19日(土) 13:30~15:30
- \*開催会場 焼津市・石津コミュニティ防災センター1階展示室
- \*プログラム

- 13:30 開 会
- 13:40 経過報告「地域の課題把握3年の歩みと今回の調査の取り組み」
- 14:10 調査報告「244名の子どもから、大人社会への提言はなにか」
- 15:00 意見交換「地域の子どもを地域で育む-若者発ご近所福祉かるたで学-
- 15:30 閉 会

\*その他 当日参加者は、「調査報告書」をもとに研修していただく。



\*2020年度公開型報告研修会より

**「若者発ご近所福祉かるた 利用の手引き」完成**

静岡福祉文化を考える会が5年前に作成した「若者発ご近所福祉かるた」のさらなる活用拡大とともに、住民福祉教育の開拓をもとに、このたび「かるた利用の手引き」が完成した。すでに、5年前に開講した「港地域ささえあい講座」でも、「ご近所福祉を学ぶ」講座で活用した経緯がある。

本会は、「かるた利用の手引き」の作成企画の段階において、協力し、定例研究会においても、内容について議論をしながら、「協働」による協力関係を持ちながら完成を楽しみにしていた。(200部発行 問い合わせは本会まで)



**●焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見 (11/08~11/30)**

11/08	・本会協力、静岡福祉文化を考える会「若者発ご近所福祉かるた 利用の手引き」(200部)納品
11/09	・港地区民生委員児童委員協議会会長より、11月定例会議で、「調査説明」了解の連絡有
11/13	・第32回定例研究会開催(各会員の考察報告②) ゲスト出席1名あり
11/16	・静岡新聞社焼津支局長との意見交換(かるたの手引き完成、調査の考察作業継続)
11/17	・11月港地区民生委員児童委員協議会にて、本会が3年間「赤い羽根助成事業」による活動に取り組んでいることへの感謝と、今年度の「子ども対象調査研究事業」の経過報告と今後の予定(公開型報告研修会)について案内し、今後の協力をお願いする。
11/18	・静岡新聞に「若者発ご近所福祉かるた」増刷及び「かるた利用の手引き」発行の記事掲載
11/19	・「かるた」新聞記事の問い合わせあり ・「調査報告書」執筆作業継続
11/20	・日本福祉文化学会HPに、「若者発ご近所福祉かるた」「かるた炉用の手引き」をアップ依頼 ・第1回焼津市V連代表者会議開催
11/21	(年会費徴収、V保険100円×10名分補助有、各団体に一律活動助成7,000円有)
11/27	・静岡福祉文化を考える会主催「第20回静岡県福祉文化研究セミナー」開催
11/30	・第10回調査部会開催(経過報告、研究会報告書作成状況、考える会調査集計表に関すること)

「焼津福祉文化共創研究会」「静岡福祉文化を考える会」の活動状況を「QRコード」で確認してみてください!「地方発 福祉文化の創造」をさらに発信続けてまいります。

本会活動の問い合わせは事務局まで。



研究会QRコード



考える会QRコード

Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

**焼津福文共通信第28号**

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介 原崎洋一

原崎幸子 平田厚

**2021年から2022年につなぐ「共創社会」に向けて****第33回定例研究会で、“子ども”からの尊い意見をいかに活かすか議論**

「港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る」を活動テーマに取り組んできた2021年度の国会活動は、厳しいコロナ禍下、中断することなく、これまで、9カ月間の活動を展開し、いよいよ、あと3カ月で総括をする時期を迎えた。

2021年度は、尊い「赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」により、「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査事業」に取り組み、子どもたちから、大人社会に向けた提言が間もなくまとまる。さる2月11日に開催した「第33回(12月)定例研究会」において、4月から12月まで、取り組んできたこれまでの活動を振り返りながら議論し合った。

- \*地域力が弱まった今日、子どもたちからの意見を、今後の地域づくりにどのように活かせるか、大人社会に向けた課題としてしっかりと受け止めていきたい。
- \*本会が「子ども対象の調査」をするに当たり、学校を始め、子供会・PTA関係者、民生委員児童委員、自治会・町内会関係者の方々に、まず、本会の活動を理解していただくための努力をした結果、調査の目的を理解していただき、「相互理解」により、予想をはるかに上回る子どもたちからの回答をいただくことができた。本会の地域活動の原点は、ここにある。
- \*「協働」で取り組むことの意義を、このたびの「調査活動」から改めて検証することが出来た。
- \*本会の活動は、単に、調査結果を出して終わりではない。この3年間、活動の原点をもとに、プロセスを重視して取り組んでいる「調査活動」から、地域社会に向けた提言をしている。本会は、これらの提言をもとに、地域づくりを学び合う活動につなげる努力をしていきたい。



● 2021年度「赤い羽根みんなのしあわせ募金」助成事業  
**「“福祉”ってなに？244名の子どもたちに聞きました」調査概要報告 その3**  
**生活状況(子ども)から、“福祉ってなに？”を読み取る**



このたび実施した「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました」調査では、24の質問を「子どもの生活状況からの考察」「家庭・家族との関わりからの考察」「地域社会・地域活動からの考察」「福祉との出会い(ふれあい交流)からの考察」「これからの地域の支え合いの提言からの考察」の5つの考察から、子どもたちから大人社会への提言としてまとめた。今回は、「子どもの生活状況からの考察」について概要を紹介。

1. 「遊び」「手伝い」「自分の悩みごとの解決方法」「友だちの悩みへの対応」から福祉を考察をした
2. 子どもの日常生活は、今日では、生活基盤の固定化・塾・習い事や、親の就労により、取り巻く社会環境は大きく変化している。子ども自身の選択肢より、自由にのびのびと自発的に行動し、子ども同士の関係づくりの基盤は薄れ、少しずつ学年が上がるごとに制約されていることが伺える。
3. 家庭環境の中で、子どもの「手伝い」の選択肢は、明確な役割分担を持ち、責任感を促し、社会に向けた自発的な行動に移行できるように、日常生活の中で、大人社会が工夫していくことが期待される。
4. 自分の悩みを日常生活の中でいかに解決出来るか、身近な大人社会が常に歩み寄る配慮が求められる。特に、回答結果から、父親の存在が問い質されている。発達段階に応じた、友達関係や家族関係のつながりにより、協調性を養い、思いやる心が醸成する中で、自ら問題解決方法が切り開かれていくように感じる。全体的に、友達の相談に応じようと歩み寄る優しさが読み取れる。語れる環境を維持し、コミュニケーションのサポートを大人社会が側面的にかかわる工夫。特に男性への積極的な関わりを心掛けたい。

**まもなく「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査報告書」完成**

次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」が、確実に醸成されているか、加えて、厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうかを問い質すため、広く管内の「地縁団体」と「志縁団体」の「協働」をもとに協力を呼びかけ、身近な生活圏域において、地域の大人社会と向き合う子どもたちを対象に調査を実施した。ご近所や同居する高齢者（認知症高齢者含）、障がい児者等への思いやり等について、「基本属性」「生活状況（子ども自身）」「家庭・家族のこと」「地域社会・地域活動のこと」「体験事例」「地域への期待」の各項目の意識と実態を把握した。そこから、子どもたちにとって「福祉ってなに？」を大人社会に向けて、子どもたちを取り巻く地域環境の課題を改善・解決し「共生社会」を提言することを目的に、「焼津市“赤い羽根”みんなのしあわせ助成事業により「調査報告書」作成した。「第1章 調査の概要」「第2章 サンプル構成／基本属性」「第3章 調査結果」「第4章 調査のまとめ」「第5章 資料編」の5章からなり、A480頁仕立てとなっている。2月20日(日)の公開型報告研修会で公表予定。問い合わせは事務局まで



**☆2021年度赤い羽根共同募金事業 調査研究事業「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました」**

**予定を変更して、令和4年2月20日（日）公開型報告研修会開催**

第27号でご案内しました、「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました公開型研修会」は、諸般の都合により、令和4年2月20日(日) 13:30焼津市石津コミュニティ防災センターにおいて、開催いたします。ここに、改めて下記にご案内申し上げます。\*「3密防止」徹底にご協力下さい。

- \*開催日時 令和4年2月20日(日) 13:30~15:30
- \*開催会場 焼津市・石津コミュニティ防災センター1階展示室
- \*プログラム

- 13:30 開 会
- 13:40 経過報告「地域の課題把握3年の歩みと今回の調査の取り組み」
- 14:10 調査報告「244名の子どもから、大人社会への提言はなにか」
- 15:00 意見交換「地域の子どもを地域で育む-若者発ご近所福祉かるたで学-
- 15:30 閉 会



\*その他 当日参加者は、「調査報告書」配布

**● 焼津福祉文化共創研究会(関連団体含)1月~3月活動予定表 ●**

1 月	1/ 1	焼津福祉文化共創研究会通信第28号発行
	1/ 8	第12回調査部会開催(経過報告、研究会報告書作成確認、公開型報告研修会展開検討)
	1/15	第34回定例研究会開催(経過報告、公開型報告研修会展開確認、次年度計画検討)
	1/20	公開型報告研修会広報啓発活動(~2/19)
2 月	2/ 5	第13回調査部会開催(経過報告、調査研究事業総括1)
	2/20	第35回定例研究会開催(経過報告、当日公開型報告研修会展開最終確認、会場準備)
	2/25	焼津福祉文化共創研究会通信第29号発行
	2/26	静岡福祉文化を考える会主催「第3回公開型研修会」開催(県域調査報告)
	2/28	赤い羽根みんなのしあわせ助成事業実施報告書提出
3 月	3/ 5	焼津市V連絡協議会代表者会議出席
	3/12	第14回調査部会開催(経過報告、調査研究事業総括2)
	3/25	焼津福祉文化共創研究会通信第30号発行
	3/26	第36回定例研究会開催(経過報告、今年度事業総括、自然後事業確認)

「焼津福祉文化共創研究会」「静岡福祉文化を考える会」の活動状況を「QRコード」で確認してみてください!「地方発 福祉文化の創造」をさらに発信続けてまいります。

\* 本会活動の問い合わせは事務局まで \*



研究会QRコード



考える会QRコード

# 地域行事「参加したい」8割

焼津市内2自治会の

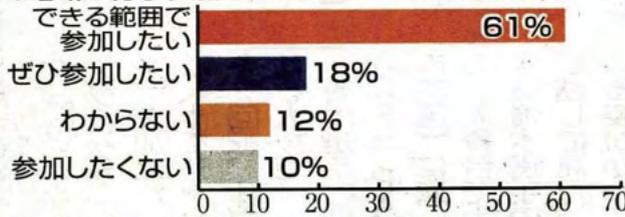
た。

地域住民でつくる「焼津福祉文化共創研究会」(平田厚代表)は子どもたちの福祉や地域社会に対する意識調査の中間結果をまとめた。地域行事に参加するかとの問いに、8割近くの児童たちが呼び掛けがあれば参加したいと回答した。新型コロナウイルスの影響で行事の中止が続く中、子どもたちが交流を求める実態が浮き彫りになっ

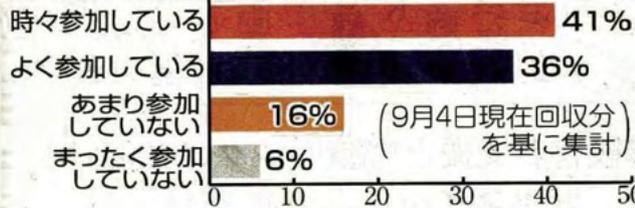
## 焼津の研究会 児童らへ意識調査

### 焼津市内2自治会の児童の意識調査

Q.地域の行事参加の呼び掛けがあれば参加する?



Q.地域が行う行事に参加している?



い」が合わせて79%を占めた。自分が住んで

最も多かった。平田代表は「子ども

いる地域の良い点を挙げる設問では「近所の人」が「優しい」が28%で

## コロナ禍 交流求める実態浮き彫り

「一方で「近所の人と話をするか」との尋ねに、「あいさつをするくらい」が60%、「地域の人にほめられたことがあるか」の設問では68%が「ない」と答え、近所付き合いの希薄さが浮き彫りとなった。

# 子どもへの積極関与 重要



地域コミュニティの再構築に向けて協議する参加者  
 =静岡市葵区の県社会福祉会館

葵区 静岡福祉文化を考える会

静岡福祉文化を考える会(平田厚代表)はこのほど、「第3回共創社会実現研究会」および「2021年度第2回公開型研修会」を静岡市葵区の県社会福祉会館で開いた。地域コミュニティの再構築に向けた課題を話し合った。

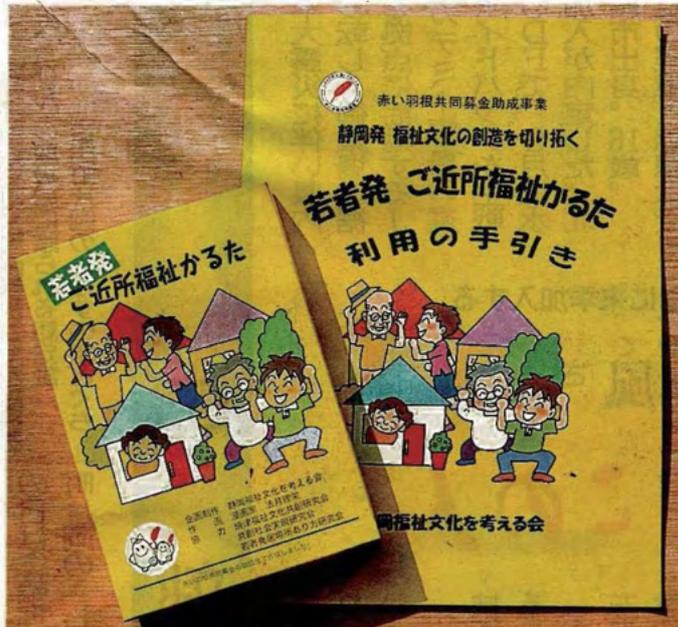
## 地域再構築に向け討論

会員や自治会役員、民生委員ら6人が参加した。近所付き合いが希薄化した地域の中で生活する子どもの実態を県内の子どもたち約330人にアンケートした結果を中間報告した。平田代表は「大人から子どもへの声掛けが減少している。大人から積極的に関わっていく必要がある」と分析した。

このほか、地域の福祉方向上に向けて制作された「若者発近所福祉かるた」の増刷決定を受け、利用手引書の企画作成に向けた協議を行った。これまでの利用方法を報告し、今後の活用策を検討した。

(社会部・北井寛人)

## 静岡福祉文化を考える会



新たに作成した手引きと増刷したかるた

### 絵札紹介活用事例示す

静岡福祉文化を考える会(平田厚代表)が「『若者発』近所福祉かるた」の増刷に合  
 わせて、利用手引きを作成した。2015年度に同団体が製作したかるたについて「近  
 所福祉」を学ぶ教材として再認識してほしいという思いから、完成までの経緯や活用方法  
 の実例を記した冊子作成に踏み切った。

# かるたで学ぶ「近所福祉」

## 増刷、利用手引き作成

手引きはA4判の22  
 頁。6章で構成し、か  
 るたの絵札と読み札  
 を紹介するとともに、  
 解説文も付けた。活  
 用事例も写真を交え  
 て示している。かるた  
 の作成意図が浸透し  
 きれなかったという  
 反省から、「近所福  
 祉」の定義に触れてい  
 る。

焼津福祉文化共創研  
 究会、共創社会実現研  
 究会の協力を得ながら  
 200部作成した。増  
 刷するかるたとセット  
 で今月下旬から本格的

に配布する計画。  
 かるたは「ありがと  
 う優しい気持ちのおす  
 そ分け」「会釈して通  
 り過ぎれば顔なじみ」  
 といった地域社会の在  
 り方について考えさせ  
 られる内容の札46枚で  
 構成している。  
 平田代表は「近所  
 福祉が定着するきっか  
 けとなってほしい」と  
 期待する。  
 (焼津支局・福田雄二)

## 8. 焼津福祉文化共創研究会規約

### 第1章 総則

(名称)

第1条 この会は、「焼津福祉文化共創研究会(福文共)」(以下「この会」と称します。

(事務所)

第2条 この会の事務局(連絡先)は「☎425-0044 焼津市石津向町 15-17 百の木デイサービス内(054-623-3665)」に置くこととします。

### 第2章 目的・事業・活動基調

(目的)

第3条 この会は、さまざまな福祉・ボランティア活動や福祉職に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考え、その改善のために努力していくことを目的とします。

(事業)

第4条 この会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業をおこないます。

- ① 情報交換活動
- ② 啓発・広報活動
- ③ 人的交流
- ④ 研究会・講演会・セミナーなどの開催
- ⑤ その他、この会の目的を達成するために必要な事業

(活動基調)

第5条 この会の活動は、つぎのような基調を守っていくこととします。

- ① 市民及びさまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図ります。
- ② 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に拓かれた活動をめざします。
- ③ 既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざします。

### 第3章 会員

(会員)

第6条 会員は、この会の目的に賛同し協力をする個人とします。原則として国籍・年齢・職業等を問いません。

(入会)

第7条 会員になろうとする人は、所定の申し込み用紙によって、手続きをすることとします。

(会費)

第8条 この会の会費は、「社会人 年間 1,000 円」、「大学生以下年間 500 円」とし、原則として1回払いとします。

2 すでに納入された会費は返済しません。

(退会)

第9条 会員は、いつでも役員会に申し出をし、退会することができます。

2 会費を1年以上滞納した人は、役員会において退会したものとみなすことが

できます。

## 第4章 機 関

(役員)

第10条 この会の役員は、代表1名、副代表2名、事務局長1名、事務局次長1名とます。

(役員を選任)

第11条 代表、副代表、事務局長、事務局次長は、会員の中から互選し、会員全体会の承認を受けます。

(役員の仕事)

第12条 代表は、この会を代表して会務を総括し、役員会、会員全体会を招集できる。  
2 副代表は代表を補佐し、代表に支障が生じた場合には、代表の職務を代行する。

(役員を補充)

第13条 役員が任期の途中で退任した場合には、役員会で補欠を選任することができる。

(役員会)

第14条 代表は、年6回程度、役員会を招集し、役員会は、事業・研究・広報・会計・事務局事務などの会務を執行します。

(会員全体会)

第15条 代表は、年1回は、会員の全体会を招集しなければなりません。  
2 代表は、役員会が必要と認めたとき、または、会員の3分の1以上の請求があったときは、会員全体会を招集しなければなりません。  
3 会員全体会の議事は、出席会員の過半数をもって決することします。

## 第5章 会 計

(経費)

第16条 この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてます。

(決算)

第17条 この会の決算は、役員会の議決を経たあと、会員全体会の承認を得てこれを決定します。

(会計年度)

第18条 この会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わるものとします。

## 第6章 規約の改正

(規約改正)

第19条 この規約の改正は、会員全体会において出席会員の3分の2以上の賛成をえなければなりません。

附 則 平成31年4月13日施行





**令和3年度“赤い羽根”みんなのしあわせ助成事業**

**2021年度 調査研究活動事業  
福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査報告書**

発行 焼津福祉文化共創研究会  
〒425-0044 焼津市石津向町 15-17  
デイサービス百の木石津内  
焼津福祉文化共創研究会事務局  
TEL054-623-3665 FAX054-656-3731

発行日 令和4年2月20日  
印刷所 株式会社 セイコー社  
〒425-0091 焼津市八楠三丁目 5-17  
TEL054-626-5960 FAX054-626-5970

2022. 2. 20 200部